



古今和歌集 下

^ 4  
6974  
2









万葉集

年がくも首たれは月くらあな今あしりたり

古道のしほりてむしひの目じりしほりてむしひの目じり

月形下を統より女ありおれかのしほりてむしひの目じり

しほりてむしひの目じりてむしひの目じり

あなあしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

万葉集の油は  
浦波のたぐひ  
あれどと妹は  
あぬ日(な)は

花車子勝の  
山吹やぐもれ  
たぐひとむし  
拾遺(し)ちや  
神の有む(あ)や

万斤(ま)んを  
夕暮(ゆ)ぐれ  
夕暮(ゆ)ぐれ

人の若(わか)下(した)は  
とむしひの目  
とむしひの目

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり

あしりてむしひの目じりてむしひの目じり











秋の田のうが... 集巻第十二

古今和歌集巻第十二

思はぬまも人... 和歌集

いそぐくも... 和歌集

うはれぬま... 和歌集

わびわび... 和歌集

はれぬま... 和歌集

いそぐくも... 和歌集

うはれぬま... 和歌集

わびわび... 和歌集

はれぬま... 和歌集

いそぐくも... 和歌集

うはれぬま... 和歌集

わびわび... 和歌集

はれぬま... 和歌集

和歌集の序文... 古今和歌集

和歌集の序文... 古今和歌集



川の舟をなすくもさぬらん人よらるる舟は

舟の舟は

ふらりし海白舟入下き小浦くゆきし舟あり有れ

延成或難原津既海中立渡標二水尾杭 小藤念牛よりを

君ら舟後入三ふみらぬま川に付て舟をいれ

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

素性法師

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

藤念

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

大江子

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟

舟の舟ありふらりし舟に舟の舟ありふらりし舟



これより女は家の女をいへよみひし  
わがしにふしきまてけく麻はぬあはれり  
か

母のふしにわがはなれしものらんにあはれ  
見ふよあはれまきのちと人のあはれき  
あはれき

人さしにふしにわがはなれしものらんにあはれ  
見ふよあはれまきのちと人のあはれき  
あはれき

母のふしにわがはなれしものらんにあはれ  
見ふよあはれまきのちと人のあはれき  
あはれき

人さしにふしにわがはなれしものらんにあはれ  
見ふよあはれまきのちと人のあはれき  
あはれき

母のふしにわがはなれしものらんにあはれ  
見ふよあはれまきのちと人のあはれき  
あはれき

人さしにふしにわがはなれしものらんにあはれ  
見ふよあはれまきのちと人のあはれき  
あはれき

とてたてしういひしは、おのちの事なりしを、  
死にむ河を待てて、おのちの事なりしを、  
死にむ河を待てて、おのちの事なりしを、

母のふしにわがはなれしものらんにあはれ  
見ふよあはれまきのちと人のあはれき  
あはれき

人さしにふしにわがはなれしものらんにあはれ  
見ふよあはれまきのちと人のあはれき  
あはれき

母のふしにわがはなれしものらんにあはれ  
見ふよあはれまきのちと人のあはれき  
あはれき

人さしにふしにわがはなれしものらんにあはれ  
見ふよあはれまきのちと人のあはれき  
あはれき

母のふしにわがはなれしものらんにあはれ  
見ふよあはれまきのちと人のあはれき  
あはれき

人さしにふしにわがはなれしものらんにあはれ  
見ふよあはれまきのちと人のあはれき  
あはれき

續日本紀卷老  
六年二月割遠  
江國佐益郡八  
御好置山名郡















何ぞかたて人なるに...  
言さうまらうと  
言さうまらうと

あはれなる心...  
あはれなる心

きさか...  
あはれなる心...  
あはれなる心

あはれなる心...  
あはれなる心...  
あはれなる心

あはれなる心...  
あはれなる心...  
あはれなる心

あはれなる心...  
あはれなる心...  
あはれなる心

あはれなる心...  
あはれなる心...  
あはれなる心

あはれなる心...  
あはれなる心...  
あはれなる心

橋清樹 三代実録 仁和二年 従五位下位



女家... (Vertical text at the top right)

母... (Vertical text at the bottom right)

ほろ... (Large vertical calligraphic characters)

万人... (Vertical text on the right side of the page)

六指... (Vertical text on the right side of the page)

枕草子... (Vertical text on the right side of the page)

若... (Vertical text on the right side of the page)

若... (Vertical text on the right side of the page)

若... (Vertical text on the right side of the page)

あ... (Large vertical calligraphic characters)

あ... (Large vertical calligraphic characters)

あ... (Large vertical calligraphic characters)

あ... (Large vertical calligraphic characters)

あ... (Large vertical calligraphic characters)

あ... (Large vertical calligraphic characters)

あ... (Vertical text at the bottom left)







人かたし之後とわらひ河 万ははの意はまきく其意れつとくも

九河せしむ

おもしろくは「おもしろくは」の意はまきく其意れつとくも

おもしろくは「おもしろくは」の意はまきく其意れつとくも

おもしろくは「おもしろくは」の意はまきく其意れつとくも

おもしろくは「おもしろくは」の意はまきく其意れつとくも

おもしろくは「おもしろくは」の意はまきく其意れつとくも

おもしろくは「おもしろくは」の意はまきく其意れつとくも

おもしろくは「おもしろくは」の意はまきく其意れつとくも

おもしろくは「おもしろくは」の意はまきく其意れつとくも

おもしろくは「おもしろくは」の意はまきく其意れつとくも

おもしろくは「おもしろくは」の意はまきく其意れつとくも

おもしろくは「おもしろくは」の意はまきく其意れつとくも

おもしろくは「おもしろくは」の意はまきく其意れつとくも

おもしろくは「おもしろくは」の意はまきく其意れつとくも

おもしろくは「おもしろくは」の意はまきく其意れつとくも

おもしろくは「おもしろくは」の意はまきく其意れつとくも

おもしろくは「おもしろくは」の意はまきく其意れつとくも

二つらに濃紫男の松若丸は若の若をせやと 和名抄段書毛度由比と刊せり 松若丸  
えを後ぞしし 万おあがして 松若丸は若をせやと 和名抄段書毛度由比と刊せり 松若丸  
と母は若てし 君は若てし 君は若てし 君は若てし 君は若てし 君は若てし 君は若てし 君は若てし  
おもしろくは「おもしろくは」の意はまきく其意れつとくも

飲明天皇磯城金刺宮に在りて 昔各々名に かくし 河  
たれ 後とて 上志下志 高馬を かくし 河  
おもしろくは「おもしろくは」の意はまきく其意れつとくも

おもしろくは「おもしろくは」の意はまきく其意れつとくも







郭公秋ふらふ... 延喜式に...

延喜式に...

沿す如く... 舟の...

吃川... 舟の...

舟の... 舟の...

舟の... 舟の...

舟の... 舟の...

舟の... 舟の...

舟の... 舟の...

六帖より... 延喜式に...

舟の... 舟の...

舟の... 舟の...

舟の... 舟の...

舟の... 舟の...

舟の... 舟の...

舟の... 舟の...

舟の... 舟の...

舟の... 舟の...

Small text at the bottom of the right page, possibly a signature or date.



乃のりりげなるをわまきけの平下ふと思はれなくさ

とてよみくはらうせの 人付くはな

おのれはまじきとて由良成もけりぬ者こそとてしるはぬ

とりのあめくぬれを信じてとらぬ典侍藤忠とてしるはぬ

たのあらうとては葉とてせし人我かたのねをさすあ

か 近頃の古れおのれ君

今こそむいふのこむりひもささるとるわらぬえやん

よりの期た

うらやみ有人のまはれ我 御 一しり

まらしたえらう 玉がとりのけしゆあのみまもあ人

我とてあをと思はれたのより 六帖は月影ふ道まじりて我

内よひこころんぬくすんりてとて年の姿いぬあ

まへにゆくもゆくとあまのまはれぬ海かたはれぬのさか

後藤ふまひて河原のま 中納言源のやれり約長のおつむむしをゆきり

れぬあをそとてしるはぬ 小よそをなすりしるはぬ

周 院 朝臣ノ事

わはのたつともよめくともききゆめとあつくもさ

むしーらん

伊勢

あはあぬえう我あ人乃心流わさくさゆ心

定龍

ふけいりえがこころのあはれはら人さくれもさ

大和物産の土産物とてしるはぬはらぬはらぬはらぬ

そとてあはれく 人乃心流わさくさゆ心

わのあはれく 人乃心流わさくさゆ心

あはれく 人乃心流わさくさゆ心

あはれく 人乃心流わさくさゆ心

あはれく 人乃心流わさくさゆ心

あはれく 人乃心流わさくさゆ心

あはれく 人乃心流わさくさゆ心

あはれく 人乃心流わさくさゆ心

あはれく 人乃心流わさくさゆ心



ひさし

美人うら

あはれいさかきわらふまにこれなくはまのゆもゆきし

古今和歌集巻第十五

戀 廿一五

五葉乃后宮六瀬院左大臣冬嗣公之女仁明帝の皇后文徳の母公順子といふなり

五條のまきの宮のふれにむねもる人むかひあはれ  
くまひひきまらさむとむ月入るるあつこあ  
かへまねむくはわらふまの周まねえ物もいそま  
のま物のむさるふ月入るるまらまらまらまら  
あつこのまらまらまらまらまらまらまらまら  
つこのまらまらまらまらまらまらまらまら  
まらまらまらまらまらまらまらまらまら

月やわらぬまや若の春あはれ御あひ川さゆり

あはれ御あひ川さゆり

花をよみかきまらまらまらまらまらまらまら

伊勢平公と

あはれいさかきわらふまにこれなくはまのゆもゆきし

藤原朝臣

あはれいさかきわらふまにこれなくはまのゆもゆきし

あはれいさかきわらふまにこれなくはまのゆもゆきし

あはれいさかきわらふまにこれなくはまのゆもゆきし

あはれいさかきわらふまにこれなくはまのゆもゆきし

あはれいさかきわらふまにこれなくはまのゆもゆきし

あはれいさかきわらふまにこれなくはまのゆもゆきし

あはれいさかきわらふまにこれなくはまのゆもゆきし

あはれいさかきわらふまにこれなくはまのゆもゆきし

あはれいさかきわらふまにこれなくはまのゆもゆきし

伊勢

比目者

あはれいさかきわらふまにこれなくはまのゆもゆきし







うねりたふらふ

信のつらねはえよぬきわりのひまなうらひさけ

かひのわたわひさしきりさくしるしきりさくしるし

きらうやまふれかみふれきりさくしるしきりさくしるし

信勢

仁明帝の御子薛人康 仁林院のみこ

てまよりみだれさしむれんかきりさくしるしきりさくしるし

今こそけつりかひぬきわりのひまなうらひさけ

人きぬこころふゆりさくしるしきりさくしるし

かひのわたわひさしきりさくしるしきりさくしるし

きらうやまふれかみふれきりさくしるしきりさくしるし

信勢

信のつらねはえよぬきわりのひまなうらひさけ

かひのわたわひさしきりさくしるしきりさくしるし

きらうやまふれかみふれきりさくしるしきりさくしるし

信勢

仁明帝の御子薛人康 仁林院のみこ

てまよりみだれさしむれんかきりさくしるしきりさくしるし

今こそけつりかひぬきわりのひまなうらひさけ

人きぬこころふゆりさくしるしきりさくしるし

かひのわたわひさしきりさくしるしきりさくしるし

きらうやまふれかみふれきりさくしるしきりさくしるし

信勢

仁明帝の御子薛人康 仁林院のみこ

てまよりみだれさしむれんかきりさくしるしきりさくしるし

今こそけつりかひぬきわりのひまなうらひさけ

人きぬこころふゆりさくしるしきりさくしるし

かひのわたわひさしきりさくしるしきりさくしるし

信のつらねはえよぬきわりのひまなうらひさけ



後撰小の病とて可三首有又小の病とて可三首有  
ありそよの病の 内とんくかまゆきあけりさしと今思ひてそよの  
そよの病とて可三首有又小の病とて可三首有  
そよの病とて可三首有又小の病とて可三首有

伊勢  
あつとみくしうり  
あつとみくしうり  
あつとみくしうり

あつとみくしうり  
あつとみくしうり  
あつとみくしうり  
あつとみくしうり

あつとみくしうり  
あつとみくしうり  
あつとみくしうり  
あつとみくしうり

あつとみくしうり  
あつとみくしうり  
あつとみくしうり  
あつとみくしうり

あつとみくしうり  
あつとみくしうり  
あつとみくしうり  
あつとみくしうり

あつとみくしうり  
あつとみくしうり  
あつとみくしうり  
あつとみくしうり

あつとみくしうり  
あつとみくしうり  
あつとみくしうり  
あつとみくしうり

あつとみくしうり  
あつとみくしうり  
あつとみくしうり  
あつとみくしうり







白雲の美らいたの... 白雲の美らいたの... 白雲の美らいたの...

牡丹のうらみの... 牡丹のうらみの... 牡丹のうらみの...

海月のうらみの... 海月のうらみの... 海月のうらみの...

秋のうらみの... 秋のうらみの... 秋のうらみの...

志のうらみの... 志のうらみの... 志のうらみの...

宇治のうらみの... 宇治のうらみの... 宇治のうらみの...

まのうらみの... まのうらみの... まのうらみの...

あけのうらみの... あけのうらみの... あけのうらみの...

つれづれのうらみの... つれづれのうらみの... つれづれのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

古今和歌集卷第十六

哀傷部

小野大石のうらみ

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

三代天皇御自觀十四年九月大政大臣使二位藤原朝臣... 良房兼同十月贈正二位藤原朝臣... 名河内入山城長岑郡... 大藏卿...

堀川のあまのうらみ... 正月兼... 藤原山の...

血のうらみの... 白川のうらみの... 在まのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...

あまのうらみの... あまのうらみの... あまのうらみの...











ちりけりまの女則父さるり 前父の死に今公の葬も済むかと思ひのむす中書志は  
るる小洞庵をまゝ 二まゝの女れらの侍人御下よりも今もいふもいふ

有常の惟春向の 皇太子ノ伯父と あり又女則の 父ともさるり  
伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山  
ほくくはくはくはく 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山  
今よりさるりはく 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山

方殿の御方さるり 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山  
とさるりさるり 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山  
妻姑さるり 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山  
伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山

伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山  
伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山  
伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山  
伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山  
伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山

伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山  
伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山  
伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山  
伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山

伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山  
伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山  
伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山  
伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山

伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山  
伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山  
伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山  
伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山

伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山  
伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山  
伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山  
伊せ果をまの山 伊せ果をまの山 伊せ果をまの山

三河美録業平元慶四年  
五月廿八日年五十六  
年

滋春の母右大臣長相のむすめ海女の内侍り 今昔事 ちねの御にちと ちねり



万葉集の巻八 古事類 客旅所と云ふてはまの事也 古事類 客旅所と云ふてはまの事也 古事類 客旅所と云ふてはまの事也

古事類 客旅所と云ふてはまの事也 古事類 客旅所と云ふてはまの事也 古事類 客旅所と云ふてはまの事也

古事類 客旅所と云ふてはまの事也 古事類 客旅所と云ふてはまの事也 古事類 客旅所と云ふてはまの事也

古事類 客旅所と云ふてはまの事也 古事類 客旅所と云ふてはまの事也 古事類 客旅所と云ふてはまの事也

三行実録 仁和三平正月七日授候位上石上朝臣並松後立位正心御一 孫生の御孫孫孫孫

色も人かゆ人者よりあつてはまの事也 色も人かゆ人者よりあつてはまの事也

色も人かゆ人者よりあつてはまの事也 色も人かゆ人者よりあつてはまの事也 色も人かゆ人者よりあつてはまの事也

色も人かゆ人者よりあつてはまの事也 色も人かゆ人者よりあつてはまの事也 色も人かゆ人者よりあつてはまの事也

色も人かゆ人者よりあつてはまの事也 色も人かゆ人者よりあつてはまの事也 色も人かゆ人者よりあつてはまの事也

色も人かゆ人者よりあつてはまの事也 色も人かゆ人者よりあつてはまの事也 色も人かゆ人者よりあつてはまの事也

今五符有義錦 不令人等制 能得数人 不得人 不令



海より来て 夢をよみ 止りて 夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる

我をこゝろに 夢をよみ 止りて 夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる

夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる

夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる

夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる

夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる

夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる

夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる

夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる 夢のこころを みる







あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや

春にらぬあふすこころはらむまはたしむのこころ

寛平御時まらぬさかたか合はてあつらひれむ程やあ

白雪の産ありしころはらむまはたしむのこころ

あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや

あはくは河はしを好くのまゝとや







能宣正長不淳篤とる系... 田村の村女をいふは... 屏風の志すは花とより花... 三條町能く静子とていひく名虎の女なり

凡そとてあきらめぬも... 田村の村女をいふは... 屏風の志すは花とより花... 三條町能く静子とていひく名虎の女なり

三條町能く静子とていひく名虎の女なり... 文法... 推高親王生... かつて和歌に雁さるゝもの

文法... 推高親王生... かつて和歌に雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの

雁さるゝもの... 雁さるゝもの... 雁さるゝもの



後世不見... 此... 人... 今... 万... 一...

わんれ... 事... 中... 人... 一... 一...

中... 人... 一... 一... 一...

中... 人... 一... 一... 一...

中... 人... 一... 一... 一...

中... 人... 一... 一... 一...

中... 人... 一... 一... 一...

中... 人... 一... 一... 一...

中... 人... 一... 一... 一...

中... 人... 一... 一... 一...

中... 人... 一... 一... 一...

中... 人... 一... 一... 一...

中... 人... 一... 一... 一...

中... 人... 一... 一... 一...

中... 人... 一... 一... 一...

中... 人... 一... 一... 一...

七詩我生之初尚無為我生之後逢此百罹尚寐先兆

七詩我生之初尚無為我生之後逢此百罹尚寐先兆



言のまじき人... 晋戴凱之竹... 舊植之中有石... 日并不割不采... 在行平如也

山彦不同... 解官に三有喪解病解... 左近將監... 平ら... 伊勢...

今そと... 三代實録元慶三年十月廿五日... 紀朝臣利貞授位下人...

七系中宮温子昭宣... 昌泰二年皇太后... 後の崩す月の中の柱... 今そと...

今そと... 三代實録元慶三年十月廿五日... 紀朝臣利貞授位下人...

今そと... 三代實録元慶三年十月廿五日... 紀朝臣利貞授位下人...

今そと... 三代實録元慶三年十月廿五日... 紀朝臣利貞授位下人...

今そと... 三代實録元慶三年十月廿五日... 紀朝臣利貞授位下人...

今そと... 三代實録元慶三年十月廿五日... 紀朝臣利貞授位下人...

今そと... 三代實録元慶三年十月廿五日... 紀朝臣利貞授位下人...

今そと... 三代實録元慶三年十月廿五日... 紀朝臣利貞授位下人...

今そと... 三代實録元慶三年十月廿五日... 紀朝臣利貞授位下人...

今そと... 三代實録元慶三年十月廿五日... 紀朝臣利貞授位下人...

今そと... 三代實録元慶三年十月廿五日... 紀朝臣利貞授位下人...

今そと... 三代實録元慶三年十月廿五日... 紀朝臣利貞授位下人...

今そと... 三代實録元慶三年十月廿五日... 紀朝臣利貞授位下人...

今そと... 三代實録元慶三年十月廿五日... 紀朝臣利貞授位下人...



三代定能貞觀十五年七月十一日四品正上推高親王兼病領出家馬河川に時義廿九下  
山城安岩郡の山野なり君これをもみかへりしにいとかしむるをうらむるに  
御幸にたすきたまはしはまのてと

とありおのちのりよは月よとあつんをよまらるるにりたるふ  
ひえのふりかたとなりせぬ雪いとあつるにりたるふか  
のじりよまらるるにりてあつんをよまらるるにりたるふ  
とありおのちのりよは月よとあつんをよまらるるにりたるふ

いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ

いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ

いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ

いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ

いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ

いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ

いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ

いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ

いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ

いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ

いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ  
いとあつんをよまらるるにりたるふ















おのれをすくすく...  
あつた...  
いせの...  
たまたまの...  
けい...  
り...  
あつた...  
いせの...  
たまたまの...  
けい...  
り...  
あつた...  
いせの...  
たまたまの...  
けい...  
り...

あつた...  
いせの...  
たまたまの...  
けい...  
り...  
あつた...  
いせの...  
たまたまの...  
けい...  
り...  
あつた...  
いせの...  
たまたまの...  
けい...  
り...  
あつた...  
いせの...  
たまたまの...  
けい...  
り...

あつた...  
いせの...  
たまたまの...  
けい...  
り...  
あつた...  
いせの...  
たまたまの...  
けい...  
り...  
あつた...  
いせの...  
たまたまの...  
けい...  
り...  
あつた...  
いせの...  
たまたまの...  
けい...  
り...







二のちちちたひむひひてささるり〜  
あつ川とよのねにあつね 題  
たふに三のたふ

君がうけいこのまのわづら〜  
山もろりさるりこのまの山もろり

まごんくさふのらま〜  
とまがかりさるり

詠 詠 奇  
詠 女 うま

花のたふ〜  
山吹の花の色なむ

く〜  
七月首さるり

あ〜  
海ふを海

花のたふ〜  
花のたふ

花のたふ〜  
花のたふ

花のたふ〜  
花のたふ

花のたふ〜  
花のたふ

花のたふ〜  
花のたふ

花のたふ〜  
花のたふ



在るに... 神代記... 須磨... 平賀... 小野... 小野小町... 小野小町... 小野小町...

いと神代... 神代記... 須磨... 平賀... 小野... 小野小町... 小野小町... 小野小町...

花より... 神代記... 須磨... 平賀... 小野... 小野小町... 小野小町... 小野小町...

高き... 神代記... 須磨... 平賀... 小野... 小野小町... 小野小町... 小野小町...

みみ... 神代記... 須磨... 平賀... 小野... 小野小町... 小野小町... 小野小町...

定東... 神代記... 須磨... 平賀... 小野... 小野小町... 小野小町... 小野小町...

月の... 神代記... 須磨... 平賀... 小野... 小野小町... 小野小町... 小野小町...

神代記... 須磨... 平賀... 小野... 小野小町... 小野小町... 小野小町...

神代記... 須磨... 平賀... 小野... 小野小町... 小野小町... 小野小町...

神代記... 須磨... 平賀... 小野... 小野小町... 小野小町... 小野小町...

神代記... 須磨... 平賀... 小野... 小野小町... 小野小町... 小野小町...

神代記... 須磨... 平賀... 小野... 小野小町... 小野小町... 小野小町...

神代記... 須磨... 平賀... 小野... 小野小町... 小野小町... 小野小町...

神代記... 須磨... 平賀... 小野... 小野小町... 小野小町... 小野小町...

神代記... 須磨... 平賀... 小野... 小野小町... 小野小町... 小野小町...

神代記... 須磨... 平賀... 小野... 小野小町... 小野小町... 小野小町...

神代記... 須磨... 平賀... 小野... 小野小町... 小野小町... 小野小町...

Bottom margin text, likely bleed-through or additional notes.















あつたはらに... 万葉十四東...

みくらりく... 万葉十四東...

わさの... 万葉十四東...

あつたはらに... 万葉十四東...

あつたはらに... 万葉十四東...

あつたはらに... 万葉十四東...

あつたはらに... 万葉十四東...

あつたはらに... 万葉十四東...

あつたはらに... 万葉十四東...

あつたはらに... 万葉十四東...

あつたはらに... 万葉十四東...

あつたはらに... 万葉十四東...

あつたはらに... 万葉十四東...

あつたはらに... 万葉十四東...

あつたはらに... 万葉十四東...

あつたはらに... 万葉十四東...

あつたはらに... 万葉十四東...

三代実録陸奥国河内郡... 神社

あつたはらに... 万葉十四東...

あつたはらに... 万葉十四東...

あつたはらに... 万葉十四東...

あつたはらに... 万葉十四東...

あつたはらに... 万葉十四東...

あつたはらに... 万葉十四東...







いさあけ人のあはれをいさあけのうらみよとて人あはれ  
うらみよとて

ふらふらぬの籠のよみよふ人のうらみよとてあはれいさあけ  
巻第14

ふらふらぬの籠のよみよふ人のうらみよとてあはれいさあけ  
そやとていさあけいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけ  
いさあけいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけ

万とあはれをいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけ  
見せよ  
貫之のあはれいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけ  
あはれいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけ

日本記允恭の時、交通非ともあはれいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけ  
あはれいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけ  
あはれいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけ  
あはれいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけいさあけ

古今和歌集序

紀洪至

夫和歌者、其根於心地、其花於詞林、有也。人之在世、不能無為。思慮易遷、哀樂相愛。感於志、詠於言。是以逸者其有、哀者其吟。悲可以述懷、可以發憤。動天地、感鬼神。化人倫、和夫婦。莫宜於和歌。倭語有云、義一曰風、二曰賦、三曰比、四曰興、五曰雅、六曰頌。若夫春寫之晴花、中秋蟬之吟樹、上雖無曲、折各致款。謹物皆有之、自然之理也。然而神、世七代時、質人淳情、款無不和。歌未作、遠干、素盡焉。子到出、園始有三十一字之條。今、反方之化也。其後雖天神之臨、海童之女、莫不以和歌通情者。愛及人代、此風大起。長歌



經哥梳頭混平之類。雖非一涇流漸盤  
 於拂雲之樹。生自寸苗之燠。浮天之波。起於  
 一滴之露。至如雅波津之什猷。  
 天皇富儲川之篇。太子或事開神異。或具入  
 照玄。但見上古。哥多存古質之語。未為耳目  
 之玩。旋為交誼之瑞。古  
 天子每辰。委系詔侍。長於案道者。猷和於君  
 后。情由斯可見。賢愚之性。於是相分。所以  
 隨民之欲。擇士之才也。月大津皇子之初作  
 詩賦。詞人。太子慕凡。繼塵移波。漢家之字。化  
 我日域之俗。氏業一。改和於漸。甚然。行有先  
 師。研不古。史者高振神妙。思拙步。古今之  
 間。有山。也亦人者。並和於。也其。餘業。和哥

者。綿。不。後。及。彼。時。名。流。潘。人。貴。春。陰。浮。相  
 色。其。長。流。泉。漏。其。實。皆。落。其。花。如。常。也。多。好  
 色。之。家。以。此。為。制。焉。之。使。乞。食。之。客。以。此。為  
 活。斗。之。注。故。半。為。婦。人。之。古。那。進。古。史。之。前  
 近。代。存。古。風。者。幾。二。三。人。然。長。短。不。同。論。以  
 可。弁。也。山。僧。正。心。得。歌。新。曲。之。詞。花。而。少。言  
 如。畫。畫。好。女。汽。動。人。情。在。急。中。將。之。歌。其。情  
 有。餘。乎。詞。不。足。如。善。心。雖。少。彩。色。而。有。意。者  
 文。琳。巧。詠。物。物。其。新。近。俗。如。賣。人。之。玉。釵。衣  
 字。治。山。僧。長。撰。之。詞。也。麗。而。首。也。停。滯。如。皇  
 秋。月。遇。曉。雲。小。野。小。町。之。歌。古。衣。通。非。之。流  
 也。然。於。而。無。氣。力。如。病。婦。之。玉。花。粉。古。反。思  
 主。之。歌。古。猿。丸。大。更。之。鳥。也。頗。有。逸。興。而。斯



甚鄙。如田支之鳥花示也。以介氏姓流同者  
不可勝數。其大者皆以龍為基。不知龍之趨  
者也。俗人爭事。宗利不用。祿如欲也。或  
蜂貴。乘相將。富餘。金抄。而肯未。庸土中。名先  
減。世工。適。而後。世。被。知。者。唯。和。和。之。人。而  
已。何者。語。近。人。耳。義。慣。神。心。也。昔。平。塔。  
天子。招。約。自。之。撰。百。葉。集。自。余。以。未。時。歷。十  
代。教。造。百。年。其。後。和。和。奔。不。致。推。雖。風。流。如  
聖。宰。相。輝。情。如。在。他。云。而。皆。以。他。也。固。不。以  
斯。道。取。  
階。下。河。宇。子。今。九。載。仁。流。短。津。洲。之。外。惠。哉。  
流。彼。山。之。陰。例。變。為。水。一。李。席。一。用。口。妙。長  
為。最。之。頌。洋。一。滿。耳。思。繼。既。絕。一。風。雅。無。久

唐之道。宣。紹。大。肉。記。紀。友。則。所。書。所。以。紀。貫  
之。茶。甲。變。少。目。九。河。內。朽。垣。古。法。心。府。生。王  
生。忠。岑。亦。各。款。宗。集。并。古。來。舊。款。曰。續。百。葉  
集。右。是。皇。之。詔。部。類。所。存。之。古。勅。為。二。十。卷。  
名。曰。古。今。和。款。集。凡。各。詞。少。去。屯。之。類。名。竊  
秋。夜。之。長。况。或。進。恐。時。俗。之。嘲。退。悲。又。流。之  
拙。適。遇。和。款。一。中。具。以。未。吾。乃。之。再。昌。嗟。乎  
人。丸。沉。沒。和。款。不。在。斯。式。于。時。延。喜。五。年。歲  
次。己。丑。四。月。十。八。日。臣。貫。之。等。謹。序。

日本書紀卷尾向言御下云日本書紀歷代之古史也元正天皇養老年中一品受親王太朝臣宇麻呂奉勅撰之吾朝撰書迄奏覽以是為權輿者耶此書紀所言時代者吾朝天神七代地神及代乃至持統天皇記年月日時所有事實均與真礎文也

# 譚和智屋新刊

京車屋町東川上町  
林久次郎  
菅神田乘物町出店  
同源共衢

大五

乙未年







樂天堂

佐藤了齋

花書











○方越能山時阿閉皇女の宮書入 阿陪皇女ハ天智天皇の皇女天武天皇の  
皇后ナリテ草壁の皇子と生ウ 母ハ持統天皇とナリ 藤原山田石川  
麻呂の大臣の女姫娘といフ 志保ハ宮書入ハ母トシテ 母ハ世山ハ地保  
アリト云フ 日守他ニ純の兄山田と云フナリ



河川もはたし陸地の事は見えぬが、  
河川の流路は、  
河川の流路は、  
河川の流路は、

河川の流路は、  
河川の流路は、  
河川の流路は、  
河川の流路は、

立田山 神武記 皇師勸歩兵起龍田而其道杖峽人  
不得並行乃還更欲江東踰勝駒而入中洲云々 万葉集

河川の流路は、  
河川の流路は、  
河川の流路は、  
河川の流路は、

河川の流路は、  
河川の流路は、  
河川の流路は、  
河川の流路は、

河川の流路は、  
河川の流路は、  
河川の流路は、  
河川の流路は、











四つ川山の弁には 日本記雄略天皇十四年正月身狭村主青等  
共吳国使將吳取敵于村伎濱織吳織及衣縫兄媛  
弟媛等泊於住吉津是月為吳客道通磯齒津  
路名吳坂

○神あまの可 其神系をいふは樂平奏する事なり  
大月と神をいふはあまの可なり 神系と名付くは古  
書にいふ事なり 神功皇后記に法琴あるをせとて海の物  
とて東竹のうたひをいふ事なり

○梯ゆかりの可 神あまの可の時よりて高きなり 梯ゆかりの可  
梯ゆかりの可 三本ぬき杖 篠原 杓 哥也  
○神位のもひりの可 神のあまをいふ事なり 三室山万葉の  
二日山又神あまの家の山といふ事なり 余の神はたは神位とて  
神事には神位をいふ事なり 和名抄に 龍眼本をいふ事なり

○名をいふの可 神あまの可の時よりて高きなり 梯ゆかりの可  
宜なる事なり 神はたは神位をいふ事なり 和名抄に 龍眼本をいふ事なり







